

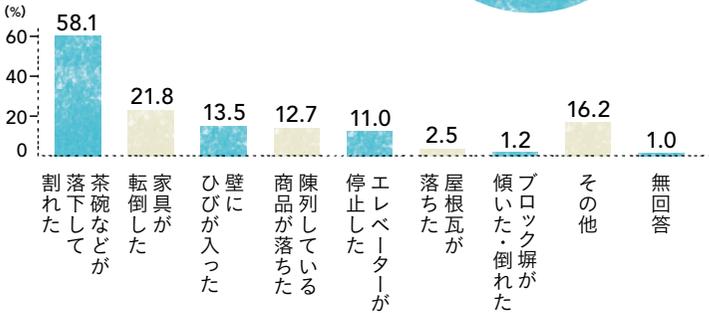
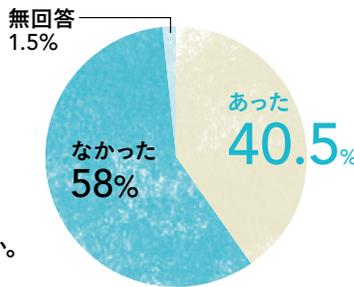
特集 1

# 「いざ」という時に備えて 私たちにできること、 市で備えていること

東日本大震災から2年余りが過ぎました。震災への恐怖が薄れ始めていませんか？ あの未曾有の大地震の被害は、人ごとではありません。必ず起きるといわれる震災について、もう1度考えてみましょう。

## 武蔵野市 防災に関する市民意識調査結果から

- Q あなたの自宅では、東日本大震災で何らかの被害がありましたか。
- Q (被害があったと回答された方に) どのような被害がありましたか。



- Q 日頃の防災対策についてお尋ねします。東日本大震災発生前から行っていた地震対策は何ですか。また、東日本大震災発生後、地震に備えてご自宅で行ったものはありますか。

	震災前	震災後
非常用懐中電灯や乾電池などを備蓄する	38.5%	51.2%
非常用持出品を用意する	31.8%	37.8%
地震や防災に関するニュースや番組をよくチェックする	25.7%	36.5%
家族との連絡方法を決める	13.3%	25.1%
家族が離れ離れになったとき落ち合う場所を決める	17.6%	21.2%

## 東日本大震災での武蔵野市内の被害は？

平成23年3月11日に発生した東北地方太平洋沖地震は、観測史上最大規模の揺れと津波を引き起こし、東北地方だけでなく、関東地方にも大きな被害をもたらしました。武蔵野市でも震度5弱を観測し、市内では塀の倒壊や住居などの損壊が発生したほか、多くの帰宅困難者が発生しました。

震災後に武蔵野市が防災対策について実施したアンケートを見ると、市内でも4割の家庭で「茶碗などが落下して割れた」「家具が転倒した」といった被害が発生。震災により防災意識が高まり、「懐中電灯や食料などを備蓄する」など、改めて対策をとった家庭も多いようです。震災から2年以上が経ち、時間とともに強烈な記憶も薄れつつあるのではないのでしょうか。必ずやって来る大地震への準備を、改めて確認してみましょう。

調査実施の概要  
 調査期間：平成23年12月1日～16日  
 調査対象：住民基本台帳から無作為抽出した満20歳以上の男女2,000人  
 調査方法：郵送調査法  
 有効回収：1,007件(有効回収率50.4%)

# 大震災は必ずやって来ます 決して、人ごとではありません

火災、建物やブロック塀等の倒壊、ライフラインの停止、人的被害など、武蔵野市では、首都直下地震による被害を次のように想定し、防災対策を計画しています。

## 首都直下地震による被害想定

### 想定される地震

※「M」=マグニチュード

種類	東京湾北部地震	多摩直下地震	元禄型関東地震 (プレート境界多摩地震)	立川断層帯地震
震源	東京湾北部	東京都多摩地域	神奈川県西部	東京都多摩地域
規模	M7.3		M8.2	M7.4
震源の深さ	約20km~35km		約0km~30km	約2km~20km

### 武蔵野市における被害想定概要

被害項目	被害想定
震度	市内最大 <b>震度6強</b>
死者数	<b>41人</b>
負傷者数	<b>796人</b>
・うち重傷者数	<b>83人</b>
全壊・焼失棟数	<b>1,455棟</b>
・焼失棟数	<b>1,041棟</b>
・建物倒壊棟数(全壊)	<b>414棟</b>
避難者数(ピーク時)	<b>31,496人</b>
・避難所避難者数	<b>20,472人</b>
・避難所以外への避難者数(疎開者人口)	<b>11,024人</b>
帰宅困難者数(武蔵野市全域)	<b>53,755人</b>
上水道(断水率)	<b>56.20%</b>
下水道(管きょ被害率)	<b>16.30%</b>
停電率	<b>6.70%</b>



目標 1 死者を**6割以上**減少させる

目標 2 避難者を**6割以上**減少させる

目標 3 帰宅困難者の**安全を確保**し、**駅周辺の混乱を防止**する

目標 4 ライフラインを**60日以内**に**95%以上**回復する

\*死者数、負傷者数、全壊・焼失棟数は東京湾北部地震(冬の夕方18時、風速8m/秒)のケースとする(負傷者数については、死者数が最も多いケースに合わせる)\*その他は多摩直下地震(冬の夕方18時、風速8m/秒)のケースとする

出典:「首都直下地震等による東京の被害想定(東京都平成24年4月公表)」

(参考)発生確率の推計:地震調査研究推進本部地震調査委員会は次のとおり、地震の発生確率を公表している。

・「相模トラフ沿いの地震活動の長期評価」(平成16年8月23日)において、南関東においてプレートの沈み込みに伴い発生するM7程度の地震を「その他の南関東の地震」として、今後30年以内に発生する確率を70%とされている。東京湾北部地震及び多摩直下地震については、「その他の南関東の地震」に含まれる。

・元禄型関東地震については、海岸地形の調査研究から、平均活動間隔が2,300年程度と推定され、今後30年以内に発生する確率はほぼ0%とされている。

・立川断層帯地震については、平均活動間隔は10,000~15,000年程度と推定され、今後30年以内に発生する確率は0.5~2%とされている。



東日本大震災当日、吉祥寺駅構内の帰宅困難者(提供:JCN武蔵野三鷹)

東日本大震災の被害は想像を越える規模で、これまでの地震の被害想定を大きく覆すものでした。東京都はこの震災のデータを踏まえて被害想定の見直しを行い、平成24年4月にその内容を公表。武蔵野市でも、これをベース

に市内の被害想定の見直しを行いました。新たな被害想定では、4つの想定地震のうちそれぞれ最も被害が大きい数値をとり、死者数や負傷者数、建物の被害をシミュレーションしています。この想定を見てみると、建物の揺れへの対策はもちろん、火災への対策や避難所の対応、帰宅困難者への対策も必

要であることが分かります。武蔵野市ではこの被害想定に対し、被害を軽減するための4つの目標を設定しています。死者・負傷者をできるだけ減らすこと、自宅生活を継続できること、想定される帰宅困難者の安全を確保すること、ライフラインの早期復旧を実現することを目指し、平常時から万全の準備を進めます。

過去に学びながら  
改めて防災を考える



# 東日本大震災を教訓に 地域防災計画を修正しました

東日本大震災から得た課題に対応するとともに、より実効性の高い対策を行うため、武蔵野市では本年4月に地域防災計画(平成25年修正)を策定しました。

## 今回の防災計画の修正における特徴(主なもの)

### 1 災害予防計画の充実

- 計画の推進を図るため、「災害予防計画」を「被害軽減へ向けて取り組むべき事前対策の明確化」として位置付け、防災対応指針を基本に拡大・充実させる

### 2 自宅で生活継続ができる自助の推進

- 家屋の耐震化や家具転倒防止、3日分以上の水・食料の備蓄、トイレ対策を啓発
- 耐震化や不燃化が進んでいる地域として「**自宅生活継続重点エリア**」の指定を検討

### 3 共助の推進による地域防災力の向上

- 地域の防災リーダーおよびコーディネーターの人材養成
- コミュニティセンターを「**災害時地域支え合いステーション**」として位置づける



### 4 女性の視点や子育てニーズに配慮した防災対策の推進

- 防災対策を避難所運営、安全対策、物資備蓄など、女性の視点や子育てニーズに配慮する

### 5 災害時医療救護体制の充実と保健・医療・介護の連携による災害時要援護者対策の強化

- 災害時には、武蔵野赤十字病院に武蔵野市災害時医療救護本部を設置
- 災害医療コーディネーターを中心とした災害医療体制を構築
- 見守りなど配慮が必要な方を対象とする「**おもいやりルーム(福祉避難室)**」を避難所に設置



### 6 帰宅困難者対策の充実

- 駅周辺混乱防止対策協議会と連携した帰宅困難者対策を強化
- 保護者が帰宅困難となった場合の子育て施設などの対策を推進



### 7 放射性物質対策の推進

- 科学的根拠に基づく正確な情報を迅速に提供できる体制の整備

## 東京都帰宅困難者対策条例が施行されました

東京都では、帰宅困難者対策を総合的に推進するため、条例を制定し、今年4月から施行されました。その中では、対策として2つのガイドラインが示されています。ご協力をお願いします。

- 災害時にはむやみに移動を開始せず、安全を確認した上で、職場や外出先などに待機する。
- 安心して職場などに留まれるよう、あらかじめ家族と話し合い、連絡手段を複数確保するなどの事前準備をする。

を目指します。

さらに、避難所を中心に地域の助け合い(共助)を推進。各家庭やオフィスでの食料や水の備蓄(自助)も積極的に呼びかけ、行政と市民の皆さんとが協力しながら「地域防災力」の向上

しています。  
今回の地域防災計画の修正では、コミュニティセンターを「災害時地域支え合いステーション」と位置づけたことが大きな特徴の一つとして挙げられます。これは東日本大震災の際、南町コミュニティセンターが自主的に帰宅困難者を受け入れた事例などを参考にしています。

助け合う気持ちが  
防災力を向上させる

## 災害予防計画

### 地震に強い まちづくりを目指す

災害予防計画の中心となっているのは、実際に災害が起きてでもそれに耐える強い都市づくりと、避難生活でのストレスを最小限に抑える準備です。

自宅での生活の継続を推奨しつつも、避難所で予測される多様なニーズに対応するため、女性や子育て世代への対応を推進。また、ペット対策についても検討中です。避難所での共同生活が困難な避難者には、避難所やコミュニティセンターの和室などに「おもいやりルーム」を設置する予定です。

また、武蔵野市には全市的な町内会組織はありませんが、日頃からコミュニティセンターを中心とする共助の体制を推進し、被災後の生活を目指します。



消火活動訓練に参加する市民。地域防災体制を強化し、初期消火体制の向上を図ります。

## 「地域防災計画」について

大地震から市民の生命、身体、財産を守るためには、災害の段階に応じて、各主体が連携しながら適切な対策を講じる必要があります。地域防災計画では、発災前の事前対策（予防）、発災時の行動（応急対策）、発災後の再生（復興）という3つの計画から対策を示しています。

## 災害応急対策計画



医療トリアージの訓練の様子。限られた医療体制でより多くの命を救うためには不可欠です。

## 医療や介護の現場ではトリアージを実施

実際に災害が起きてしまった場合、被害を最小限に抑えるための対応についてまとめている計画です。

災害時には、限られた医療スタッフで効率よく負傷者への対応を行うため、治療の優先順位を決定する「医療トリアージ」を実施。また、避難者の

状況により、福祉施設や一般の避難所などに振り分ける「介護トリアージ（仮称）」を行い、よりスムーズな避難を推進します。混乱が予測される駅周辺では、ホテルや映画館などの民間施設も含めた一時滞在施設を確保することで、帰宅困難者を支援します。

## 災害復興計画

### 震災前の生活復旧を目指して まち全体の環境を整備

地域防災計画の最終的な目標は、一日も早くまち全体を震災前の状態に戻すことです。そのため市では、被災後に市民、各機関、団体が連携・協力しながらまちを再建することができるよう、仕組みづくりを検討中です。

さらに被災者に対しては、公的融資や助成、情報提供・指導・相談などを通じて、自立のための環境整備を行います。

## 修正案を作成した専門委員会委員長に聞きました



武蔵野市地域防災計画修正案  
検討専門委員会委員長  
亜細亜大学国際関係学部  
(災害救援活動論)教授

栗田 充治さん

地域防災計画見直しでは大量の文書を読み考えました。会議では地域選出の委員も活発に発言し、市民目線から審議できたと思います。3回の地域懇談会、シンポジウム、パブリックコメントでは多様なご意見をいただき、十分な検討を重ねることができました。

都市防災の鍵は市民の参画です。課題は日常の行動範囲で防災コミュニティを創り出すことです。率先して動く市民が増えると、来るべき大震災時に市内の死者ゼロを実現することもできるでしょう。老若男女、特に若い人の活躍を期待しています。



# 災害に強いまちにするため こんな対策を進めています

地域防災計画に基づいて、ハードとソフトの両面から、「地震に強いまちづくり」を進めています。

## 道路の拡幅と 建物の耐震化

地震発生時に緊急車両がスムーズに通行できるよう、狭あい道路の拡張を進めています。また、倒壊の危険性があるブロック塀等の改修や家屋の耐震化を促進し、地域全体の安全性を高めます。

### ☑ 地震に強い地域づくり



災害時の避難道路や消防活動路を確保するため、狭あい道路の拡幅整備を進めています。

### ☑ 出火・延焼の防止



防火水槽などの消防水利の充足率を、250m四方ごとに100%を目指して整備中です。

## 建物の不燃化と消火体制の整備

地震による火災で二次被害が発生することを防ぐため、建物の防火・耐火対策を進めるとともに、防災広場の整備など、火災が発生した場合の延焼防止や避難経路確保の対策を進めています。また地域設置消化器の整備を推進するとともに、防火水槽など消防水利の充足を目指しています。

### ☑ 災害時の医療体制の充実



災害時は武蔵野赤十字病院に医療救護本部を設置し、各医療機関と連携を取りながら救護活動を行います。

## 現場を整理する医療コーディネーター

医師会、歯科医師会、薬剤師会などと協力協定を結び、災害時の医療体制を整備。災害発生直後は武蔵野赤十字病院などに傷病者が集中することが予想されるため、災害医療コーディネーターを設置し、全国から派遣される災害医療チームとの調整を図ります。



災害時でも回線を確保しやすい防災用MCA無線を導入済み。このほか多様な連絡系統で市民へ情報伝達します。

### ☑ 的確な情報伝達手段の確保

## アナログとデジタル手段を併用

大きな災害のときは情報伝達手段が制限されたり、情報が混乱することが予想されるため、行政からの情報は防災無線を活用します。そのほか、インターネット、電子メール、

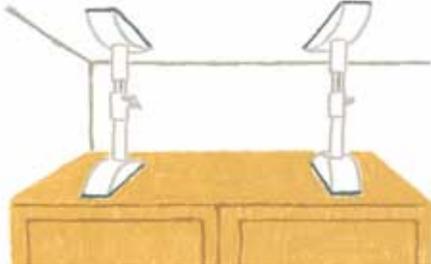
FMラジオ、ケーブルテレビなど、あらゆるツールを準備し、平時から活用しています。また、各コミュニティセンターの掲示板や広報車などアナログでの伝達手段も活用します。

あなたの家ではどうですか？

# 家庭での地震対策をお願いします

行政による防災対策(公助)はもちろん重要。でも、家庭や地域でもしっかり準備しておくことで(自助・共助)、災害時の生活はより障害やストレスが少なくなります。

## 家具を固定する



地震による被害では、家具の転倒や室内の物の散乱によるけがが深刻です。家具の固定が被災時のけがを防ぎ、避難経路の確保を可能とします。武蔵野市では高齢者・障害者世帯(要件あり)に対して無料で家具転倒防止金具を設置しています。

## 家を耐震化する



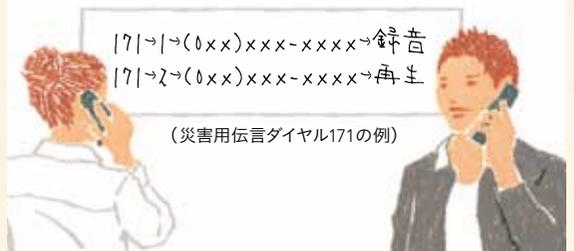
阪神・淡路大震災では、死亡者の約8割が自宅での圧死・焼死で亡くなっています。自宅を耐震化することは、家族の命を守ることに直結する重要な備えです。武蔵野市では、昭和56年以前の建物などを対象に耐震診断や耐震改修に要する費用の一部を助成しています。

## 消火器などを備える



緊急時の備えの一つ、家庭用消火器については武蔵野市が購入のあっせん・助成をしています。また、避難に備えて非常食や携帯ラジオ、医薬品などをまとめた非常持ち出し袋も用意しましょう。卓上コンロと燃料、寝袋、ライト、簡易トイレなどがあると役立ちます。

## 災害時の行動を家族で確認する



大地震が発生した場合は道路や公共交通が混乱し、家族の誰かが帰宅できなくなる可能性があります。あらかじめ地震が起きたときの行動や避難場所について、家族で確認をしておきましょう。交通機関が停止した場合の、徒歩による帰宅ルートも調べておきましょう。

## 地域でのコミュニケーションを深める



いざというときに備えて、日頃から地域でのネットワークを作っておきましょう。武蔵野市では、地域の防災リーダーやコーディネーターとなる人材を養成するほか、コミュニティセンターを中心とする共助の体制を推進。自主防災組織の育成や避難所運営組織の設立など、活動の支援を行っています。

## 3日以上分の食料と水を備蓄する



災害時にも家族が自宅で生活を続けられるよう、最低でも3日分の食料と水を用意してください。すぐに食べられる缶詰や乾パンなどのほか、カップラーメンやパスタとレトルトのソース、アルファ化米、乾物など、日常的に食べている食材を日頃から多めにストックしておけば、無理なく備蓄ができます。

私が回答します！



武蔵野市  
防災安全部  
防災課消防防係

丸山貴文さん

# こんなときはどうするの？

## 市役所防災課の担当者がお答えします

災害に遭ったときにどうすればよいのか、取るべき行動を知っておくことが自分や家族の安全確保につながります。ここでは皆さんが気になる疑問について、市役所防災課の職員に聞いてみました。

**Q** もし地震が起きたら、自宅に居るの？避難所に行くの？

**A** 市では、可能な限り自宅での生活を継続することをお願いしています。

そのためには、まず自宅が安全でなければなりません。建物の耐震化や家具転倒防止器具などの設置、3日分以上の水・食料の備蓄などを行うことが重要です。また市では、自宅で生活を継続している方への、水・食料などの物資の配り方についての仕組みづくりを進めています。

建物の損壊や火災の危険があるなど自宅生活の継続が難しいときは、避難所に行くことになります。避難所は、市内20カ所の市立小・中学校(18校)と都立高等学校(2校)を指定しています。避難所には大勢の人が避難することが予想され、プライバシーを保ちにくい状況で共同生活をしていくこととなりますので、可能な限り自宅での生活を継続できるよう準備をしておきましょう。

**Q** 災害時にペットは避難所に連れて行けるの？

**A** 避難所は多くの人が共同生活を送る場所であるため、飼い主がペットを連れて避難所へ避難すると、ペットアレルギーや動物の鳴き声、排せつ物などを原因とするさまざまなトラブルが予想されます。

飼い主にはまず住宅の耐震化やペット用の食料備蓄などを行って、可能な限りペットと共に自宅で生活を継続することを

**Q** 二次災害で怖いものってなに？

**A** 地震による二次災害で最も恐ろしいのは火災です。平成24年4月に東京都防災会議が公表した被害想定では、市内の焼失棟数は1041棟にのぼります。市では延焼防止対策として、市内各所に防火水槽・消火栓や消火器を設置しています。また、緊急車両の通行確保のため、狭あい道路の拡幅整備やブロック塀等の改修を推進しています。



お願いしています。その上で、自宅での生活が困難な飼い主や、飼い主が不明となったペットのために、市は、避難所などのペットの受け入れ態勢や保護の仕組みの整備を進めています。

しかし、最も重要なことは、いかに火を出さないかです。自らの取り組みとして、消火器や住宅用火災警報器の設置をお願いします。消火器を購入する場合、市で購入代金の一部の補助も行っています。ぜひ活用ください。



## 地域で防災活動に関わる市民の方に聞きました



避難所運営組織・境南地域防災懇談会役員

青山真市郎さん

災害時に、被災者が避難所を開設・運営するためには、平常時からの準備が不可欠です。境南町地域では住民が避難所運営組織を設立し、避難所開設・運営の訓練を長年実施しています。また、境南町地域をいくつかのブロックに分け、被災者の安否などの情報収集や地域への物資

分配などを行う拠点として、地域内の公園に「丁目ステーション」を設置するなど、防災訓練の際に地域独自の対策を行っています。また、避難所となる境南小学校は、想定避難者数が受け入れ可能人数を上回るため、災害時にも自宅での生活を継続できる仕組みを検討しています。人口密度、高齢化率の高い武蔵野市の安全安心を確保するためには、市民一人ひとりが各家庭、地域の災害対策をしっかり行っていく必要があると考えています。